

執筆者一覧

新井潤美（あらいめぐみ） 東京都出身 東京大学大学院博士課程満期退学
中央大学法学部教授 【主な著訳書論文】『不機嫌なメアリー・ポピンズ
——イギリス小説と映画から読む「階級」』（平凡社新書，2005），『ジェイ
ン・オースティンの手紙』（編訳，岩波文庫，2004），『階級にとりつかれ
た人びと——英国ミドル・クラスの生活と意見』（中公新書，2001），「英
語の女言葉——ジェンダーと敬語」『翻訳の方法』（共著，東京大学出版会，
1997），ドナルド・キーン『日本文学史 近代・現代篇』（共訳，中央公論
社，1991-92）。

石田美穂子（いしだ みほこ） 東京都出身 東京大学大学院博士課程満期退学
青山学院女子短期大学准教授 【主な著訳書論文】「E. M. フォースターの
Cosmopolitanism：『永遠の瞬間』のケース・スタディ」（『青山学院女子
短期大学紀要』60，2006），『サロン・ドット・コム現代英語作家ガイド』
（共訳，研究社，2003），「ことばの届かない領分で」『言葉と想像力』（共
著，開文社，2001），「異界を巡る旅路——E. M. フォースターのイタリア
観の変容」（『青山学院女子短期大学紀要』54，2000），“‘The minority, that
calls itself human’: Comedy of the Absurd in E. M. Forster’s *A Passage to India*”
（『リーディング』18，1998）。

石塚裕子（いしづか ひろこ） 北海道出身 東京都立大学大学院博士課程満期
退学 神戸大学国際文化学研究科教授 【主な著訳書論文】「世紀転換期
のイギリス人と地中海——ノーマン・ダグラスとカプリ」（*Kobe Miscellany*
30，2006），『ヴィクトリアンの地中海』（開文社，2004），「Gaskell と三つ
の戦争——*Sylvia’s Lovers* の歴史的背景」（『ギヤスケル論集』15，2004），
『デイヴィッド・コパフィールド』（全5巻，岩波文庫，2002-03），「Victoria
女王と Dickens」（*Kobe Miscellany* 27，2002）。

太田良子（おおた りょうこ） 東京都出身 東京女子大学（修士） 東洋英和
女学院大学国際社会学部教授・日本文芸家協会会員 【主な著訳書論文】
「スウィフトの顔，ガリヴァーの声」『ガリヴァー旅行記』（共著，ミネル
ヴァ書房，2006），「黒い僧服と白い下着」『衣裳』で読むイギリス小説』
（共著，ミネルヴァ書房，2005），エリザベス・ボウエン『幸せな秋の野原

——ボウエン・ミステリー短編集2』（ミネルヴァ書房，2005），エリザベス・ボウエン『あの薔薇を見てよ——ボウエン・ミステリー短編集』（ミネルヴァ書房，2004），アンジェラ・カーター『ワイズ・チルドレン』（ハヤカワ epi 文庫，早川書房，2001）。

梶山秀雄（かじやま ひでお） 大分県出身 広島大学（博士） 島根大学外国語教育センター准教授 【主な著訳書論文】「『別名で保存』される『大いなる遺産』——ピーター・ケアリー『ジャック・マッグズ』」（『外国語教育センタージャーナル』1，2005），「食欲不振の探偵——『マーティン・チャズルウィット』」（『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』27，2004），「告白という困難——『大いなる遺産』と『わたしたちが孤児だったころ』における叙述トリックをめぐって」（『英語英文学研究』47，広島大学，2002），「誰がエドウィン・ドルードを殺そうとかまうものか——探偵小説『エドウィン・ドルードの謎』試論」（『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』24，2001），「*Great Expectations*：反復する自伝，終わりになき加筆修正について」（『英語英文学研究』44，広島大学，1999）。

金山亮太（かなやま りょうた） 兵庫県出身 東京都立大学大学院博士課程満期退学 新潟大学人文学部准教授 【主な著訳書論文】「『ボズのスケッチ集』」（『ディケンズ鑑賞大事典』（共著，南雲堂，2007），「ユートピアとしての『ミカド』」（『英語青年』2004年6月号），「『流謫の地に生まれて』——汝再び故郷に帰れず」（『ギッシングの世界』（共著，英宝社，2003），チェスタトン『チャールズ・ディケンズ』（共訳，春秋社，1992），ギッシング『チャールズ・ディケンズ論』（共訳，秀文インターナショナル，1988）。

木村晶子（きむら あきこ） 東京都出身 お茶の水女子大学大学院博士課程満期退学 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 【主な著訳書論文】「世紀末のミソジストのヒロイン像——ジョージ・ギッシングの『女王即位50年祭の年に』と『渦』」（『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』17，2007），「George Gissing の *The Odd Women* にみる『新しい女』の文学的空間」（『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』16，2006），「二つの『転落した女』の物語——『ルース』とD・H・ロレンス『ロスト・ガール』」（『ギヤスケル小説の旅』（共著，鳳書房，2002），「『北と南』——ヒロインが語ること，語らないこと』（『ギヤスケル文学にみる愛の諸相』（共著，北星堂，2002），「『シャーロット・ブロンテの生涯』——女性の努めと作家の努め』（『ギヤ

スケルの文学』(共著, 英宝社, 2001)。

クステイヤス, ピエール (Pierre Coustillas) フランス・ロアレ県出身 University of Paris (State Doctorate) リール大学名誉教授 【主な著訳書論文】 *George Gissing: The Definitive Bibliography* (Rivendale, 2005), *The Collected Letters of George Gissing*, 9 vols., co-editor (Ohio UP, 1990-97), *The Diary of George Gissing, Novelist*, editor (Harvester, 1978), *Le Roman anglais au XIXe Siècle*, co-author (Presses Universitaires de France, 1978), *Gissing: The Critical Heritage*, co-editor (Routledge and Kegan Paul, 1972)。

小池 滋 (こいけ しげる) 東京都出身 東京大学大学院博士課程満期退学 東京都立大学名誉教授・日本文芸家協会会員 【主な著訳書論文】『イギリス文学探訪』(日本放送出版協会, 2006), 『ギッシング短篇集』(編訳, 岩波文庫, 1997), 『英国流立身出世と教育』(岩波新書, 1992), 『ギッシング選集(全5巻)』(責任編集, 秀文インターナショナル, 1988), 『ディケンズとともに』(晶文社, 1983)。

光沢 隆 (こうざわ たかし) 愛知県出身 京都大学大学院博士課程満期退学 名古屋大学非常勤講師 【主な著訳書論文】“‘Storytellers’ in Elizabeth Gaskell’s *Sylvia’s Lovers*” (『ギヤスケル論集』13, 2003), 「オカルトとオリエンタリズム——『月長石』における「千里眼」」(『歴史文化社会論講座紀要』1, 京都大学, 2004年), 「科学か, 民衆の想像力か——ピクウィック氏のフォークロア」(『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』27, 2004), 「その他の長篇・中篇小説」『ギッシングの世界——全体像の解明をめざして』(翻訳, 英宝社, 2003), 「プロレタリアートか, 職人か——Gissing の *The Nether World*」(『中部英文学』21, 2002)。

コールグ, ジェイコブ (Jacob Korg) ニューヨーク州出身 Columbia University (Ph.D.) ワシントン大学名誉教授 【主な著訳書論文】 *Winter Love: Ezra Pound and H. D.* (U of Wisconsin P, 2003), *Ritual and Experiment in Modern Poetry* (Palgrave Macmillan, 1995), *Dylan Thomas* (Twayne, 1991), *Browning and Italy* (Ohio UP, 1983), *Language in Modern Literature: Innovation and Experiment* (Barnes & Noble, 1980)。

小宮彩加（こみや あやか） 埼玉県出身 University of Leicester (M.A.) 明治大学商学部准教授 【主な著訳書論文】「ヴィクトリア朝イギリスのヴェジタリアン・ムーブメントと文学：H・G・ウェルズ『タイム・マシン』（1895）における食の考察」（『明治大学人文科学研究所紀要』60, 2007）, “Gissing, Tolstoi and the Victorian Vegetarian Movement” (*Gissing Journal* 41.2, 2005), 「吸血鬼の食餌：プラム・ストーカーの『ドラキュラ』に見るヴィクトリア朝の食の問題」『身体医文化論IV：食餌の技法』（共著, 慶應義塾大学出版会, 2005）, 「“Carpe Diem!”——『埋火』の選択」『ギッシングの世界』（共著, 英宝社, 2003）, 「ヴィクトリア朝マンチェスターにおける文学の栄枯盛衰」『ヴィクトリア朝文化研究』1, 2003）。

武井暁子（たけい あきこ） 茨城県出身 University of Aberdeen (Ph.D.) 山口大学教育学部准教授 【主な著訳書論文】“‘We Live at Home, Quiet, Confined’: Jane Austen’s ‘Vindication’ of Women’s Right to Be Active and Healthy,” *Studies in English Literature* 47 (2006), “Jane Austen and ‘A Society of Sickness,’” *Persuasions* 27 (2005), “Benevolence or Manipulation? The Treatment of Mr Dick,” *Dickensian* 101.2 (2005), “‘Your Complexion Is So Improved!’: A Diagnosis of Fanny Price’s “Dis-ease,”” *Eighteenth-Century Fiction* 17.4 (2005), “Miss Havisham and Victorian Psychiatry” (『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』25, 2002)。

武田美保子（たけだ みほこ） 広島県出身 南山大学（博士） 京都女子大学文学部教授 【主な著訳書論文】「豊穰なる亀裂——ジョージ・エリオットの『ダニエル・デロンダ』分析」『テキストの地平』（共著, 英宝社, 2005）, 『〈新しい女〉の系譜——ジェンダーの言説と表象』（彩流社, 2003）, 『余計者の女たち——狂気の遊歩者』『ギッシングの世界』（共著, 英宝社, 2003）, 「ポリティカル・ボディーとしての『M・バタフライ』」『ジェンダーは超えられるか——新しい批評に向けて』（共著, 彩流社, 2000）, 「試みとしての脱オリエンタリズム——ハーン・まなざし・女性」『異文化への視線——新しい比較文学のために』（共著, 名古屋大学出版会, 1996）。

田中孝信（たなか たかのぶ） 大阪府出身 広島大学（博士） 大阪市立大学大学院文学研究科教授 【主な著訳書論文】『ディケンズのジェンダー観の変遷——中心と周縁との葛藤』（音羽書房鶴見書店, 2006）, 「胎動する

セクシュアリティ——『北と南』とディケンズ『ハード・タイムズ』『ギヤスケル小説の旅』（共著，鳳書房，2002），「淑女の殺人——レディー・デッドロックからレディー・オードリーへ」『ヴィクトリア朝小説と犯罪』（共著，音羽書房鶴見書店，2002），『ハード・タイムズ』（共訳，英宝社，2000），『ヴィクトリア朝の人と思想』（共訳，音羽書房鶴見書店，1998）。

玉井史絵（たまい ふみえ） 奈良県出身 University of Leeds (Ph.D.) 同志社大学言語文化教育研究センター准教授 【主な著訳書論文】“The Representation of Savagery and Civilization in *The Old Curiosity Shop*”（『言語文化』8.4, 2006），「『荒涼館』——自由と監視の間で」『表象と生の間で——葛藤する米英文学』（共著，南雲堂，2004），*The Representation of Empire and Class in Dickens's Novels* (Ph.D. thesis, University of Leeds, 2004)，“*Great Expectations: The Problem of Social Inclusion*”（『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』25, 2002）。

田村真奈美（たむら まなみ） 神奈川県出身 早稲田大学大学院博士課程満期退学 豊橋技術科学大学語学センター准教授 【主な著訳書論文】ジュリエット・バーカー『プロンテ家の人々』（共訳，彩流社，2006），「*Jane Eyre* と ‘female mission’」（『ヴィクトリア朝文化研究』3, 2005），「『ジェイン・エア』における語り手の身体意識」（『プロンテ・スタディーズ』3.6, 2002），「父権制社会と個人——『シャーリー』から『ヴィレット』へ」『シャーロット・プロンテ論』（共著，開文社，2001），バーバラ・ホワイトヘッド『シャーロット・プロンテと「大好きなネル」』（共訳，開文社，2000）。

富山太佳夫（とみやま たかお） 鳥取県出身 東京大学（修士） 青山学院大学文学部教授 【主な著訳書論文】『笑う大英帝国——文化としてのユーモア』（岩波新書，2006），『文化と精読——新しい文学入門』（名古屋大学出版会，2003），『ポバイの影に——漱石・フォークナー・文化史』（みすず書房，1996），『ダーウィンの世紀末』（青土社，1995），『シャーロット・ホームズの世紀末』（青土社，1993）。

中田元子（なかだ もとこ） 静岡県出身 筑波大学（修士） 筑波大学大学院人文社会科学科准教授 【主な著訳書論文】「三つの『エスター・ウォーターズ』——ジョージ・ムアの改作に関する一考察」（『筑波英学展望』

24, 2006), “The Borrowed Breast: A Representation of Wet Nurses in Victorian England” (『論叢現代文化・公共政策』1, 筑波大学, 2005), 「『タイムズ』の求人・求職広告にみる乳^{ウエットナース}母雇用の実態」(『筑波大学言語文化論集』65, 2004), 「リスペクタブルな未婚の母——ヴィクトリア時代の乳^{ウエットナース}母をめぐる言説」(『ヴィクトリア朝文化研究』1, 2003), 「ブラックマリアはだれのために語っているのか」『英語圏文学——国家, 文化, 記憶をめぐるフォーラム』(共著, 人文書院, 2002)。

並木幸充 (なみき ゆきみつ) 東京都出身 東京都立大学 (修士) 東京理科大学理学部准教授 【主な著訳書論文】『『緑樹の陰』における断層性をめぐって』『トマス・ハーディの全貌』(共著, 音羽書房鶴見書店, 2007), “An Aspect of Free Indirect Discourse in Katherine Mansfield’s Stories” (『英語表現研究』23, 2006), “The Unknown Period of Katherine Mansfield: A Reassessment” (『東京理科大学紀要』37, 2005), “Distorted Reality in *The Return of the Native*” (『ハーディ研究』30, 2004), 「『イオニア海のほとり』——ギッシングの「詩と真実」」『ギッシングの世界』(共著, 英宝社, 2003)。

新野 緑 (にいのみどり) 兵庫県出身 大阪大学 (博士) 神戸市外国語大学外国語学部教授 【主な著訳書論文】『〈異界〉を創造する——英米文学におけるジャンルの変奏』(共編, 英宝社, 2006), 「反復の恐怖——チャールズ・ディケンズ『信号手』を読む」(『文学』5.6, 2005), 『小説の迷宮——ディケンズ後期小説を読む』(研究社, 2002), V. T. J. アークル『イギリスの社会と文化——200年の歩み』(共訳, 英宝社, 2002), 「空白の語るもの——『アグネス・グレイ』におけるジェンダーと語り」(『神戸外大論叢』52.2, 2001)。

野々村咲子 (ののむら さきこ) 岐阜県出身 名古屋大学大学院博士課程満期退学 岐阜工業高等専門学校専任講師 【主な著訳書論文】「ディケンズとコリンズの精神科学——*Our Mutual Friend* と *Armadale* における意識の諸相」(『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』26, 2003), “Physiological Psychology and Dickens’s *Bleak House*” (*IVY* 36, 2003), “Wilkie Collins and Victorian Medicine” (M.A. thesis, University of Sheffield, 2002), “The Friendly Society Movement and *Our Mutual Friend*” (*IVY* 33, 2000), “Between Realism and Idealism: The Construction of Reality in *Great*

Expectations” (JVY 32, 1999)。

廣野由美子 (ひろの ゆみこ) 大阪府出身 神戸大学 (博士) 京都大学大学院人間・環境学研究科准教授 【主な著訳書論文】『批評理論入門——「フランケンシュタイン」解剖講義』(中公新書, 2005), 『「嵐が丘」の謎を解く』(創元社, 2001), 『「ミドルマーチ」——ヒロイズムから「幻滅」へ』『ジョージ・エリオットの時空——小説の再評価』(共著, 北星堂, 2000), 『「虚栄の市」——〈家庭の天使〉像の崩壊』『ヴィクトリア朝の小説——女性と結婚』(共著, 英宝社, 1999), 『十九世紀イギリス小説の技法』(英宝社, 1996)。

ポストマス, バウア (Bouwe Postmus) オランダ・フローニンゲン州出身 University of Amsterdam (Ph.D.) アムステルダム大学人文学部教授 【主な著訳書論文】 *George Gissing's Scrapbook*, editor (Twizle, 2007), *A Garland for Gissing*, editor (Rodopi, 2001), *An Exile's Cunning: Some Private Papers of George Gissing* (Stichting Uitgeverij Noord-Holland, 1999), *George Gissing's Memorandum Book: A Novelist's Notebook, 1895-1902* (Edwin Mellen, 1996), *The Poetry of George Gissing* (Edwin Mellen, 1995)。

松岡光治 (まつおか みつはる) 福岡県出身 University of Manchester (M.Phil.) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授 【主な著訳書論文】 “Slips of Memory and Strategies of Silence,” *Dickensian* 100.2 (2004), 『ギッシングの世界——全体像の解明をめざして』(編著, 英宝社, 2003), 「ギッシング讃歌——没後百年によせて」(『英語青年』2003年12月号), 『ギヤスケルの文学——ヴィクトリア朝社会を多面的に照射する』(編著, 英宝社, 2001), 『ギヤスケル短篇集』(編訳, 岩波文庫, 2000)。

宮丸裕二 (みやまる ゆうじ) 神奈川県出身 慶應義塾大学 (博士) 中央大学法学部准教授 【主な著訳書論文】『ディケンズ鑑賞大事典』(共著, 南雲堂, 2007), “Art for Life's Sake: Victorian Biography and Literary Artists” (博士論文, 慶應義塾大学, 2005), 「チャールズ・ディケンズに見るヴィクトリア朝中産階級の職業観」(『英語英米文学』46, 中央大学, 2005), “The Grotesque in Transition: Two Kinds of Laughter in *The Pickwick Papers*” (『藝文研究』82, 慶應義塾大学, 2002), “A Private Tragedy Generalized: John Forster's *The Life of Charles Dickens* as a Dickens's Posthumous Work”

(『コロキア』20, 慶應義塾大学, 1999)。

村山敏勝 (むらやま としかつ) 新潟県出身 筑波大学 (博士) 元成蹊大学
文学部助教授 【主な著訳書論文】『(見えない) 欲望へ向けて——クイア
批評との対話』(人文書院, 2005), 『『ミドルマーチ』と細胞理論』『病と
文化』(共著, 風間書房, 2005), 『からだはどこにある? ——ポップカル
チャーにおける身体表象』(共編, 彩流社, 2004), “A Professional Contest
over the Body: Quackery and Respectable Medicine in *Martin Chuzzlewit*,”
Victorian Literature and Culture, 30.2 (2002), 「メアリー・エリザベス・ブ
ラッドン『医師の妻』——センセーションとプロフェッション』『身体医
文化論——感覚と欲望』(共著, 慶應義塾大学出版会, 2002)。

矢次 綾 (やつぎ あや) 福岡県出身 福岡女子大学 (修士) 宇部工業高等
専門学校准教授 【主な著訳書論文】『『二都物語』におけるカーニヴァル
——革命空間の集団および個人』(『中部英文学』26, 2007), 「ディケンズ
が描いた他者の歴史——『バーナビー・ラッジ』』(『九州英文学研究』23,
2006), 「過去の復元とアイデンティティー——A・S・バイアット『抱擁』
『ブッカー・リーダー——現代英国・英連邦小説を読む』(共著, 開文社,
2005), 「女性の同胞意識——ギヤスケルが短編小説に描いた独身の女性た
ち』(『ギヤスケル論集』13, 2003)。

吉田朱美 (よしだ あけみ) 広島県出身 東京大学大学院博士課程満期退学
北里大学一般教育部専任講師 【主な著訳書論文】「エマソンはどこまで
楽観主義者か——“The Over-Soul”を中心に」(『北里大学一般教育紀要』
11, 2006), キャスリン・L・アレン『スタディスキルズ——卒研・卒論
から博士論文まで (研究生活サバイバルガイド)』(共訳, 丸善, 2005),
“Evocative Music in George Moore’s *Evelyn Innes*” (『リーディング』24, 東
京大学, 2003), “Musical Phenomena around *Tess*” (『リーディング』23,
東京大学, 2002), “Memory, Psychology, and Chemistry in ‘A Christmas
Carol’ and ‘The Haunted Man’” (『リーディング』23, 東京大学, 2002)。

ロー, グレアム (Graham Law) マンチェスター出身 University of Sussex
(D.Phil.) 早稲田大学国際教養学部教授 【主な著訳書論文】*Wilkie
Collins: A Literary Life* (共著, Palgrave Macmillan, 2007), “The Serial
Revolution” (共著, *The Cambridge History of the Book in Britain: Vol. 6*,